

(議事要旨) 第20回交通政策審議会航空分科会基本政策部会

日時：令和4年11月8日(火)

場所：中央合同庁舎3号館 8階 特別会議室

【議題1 (脱炭素)】

基本方針案について

- ・騒音影響を回避するために迂回ルートを設定していることもあるが、CO2削減の重要性が高まっているときには、騒音とCO2削減のバランスをこれまで以上に考慮し、地域と議論を行い、空域設計や飛行経路設定することが重要になってくる。そのため、運航改善と空域の騒音の関係性も考慮し、地域において、それぞれの地域の環境に照らして、CO2の削減の重要性を地域に説明すべき。
- ・航空機及び空港の利用者に関する記載があるが、利用者の協力を得ていくことに関して何か具体的な施策はあるのか。利用者や企業から見た場合に、航空分野は一連の行動の一部でしかない。航空ということにあえて限定せず、例えばアメリカで行われている、自分の行動でどれくらいCO2が削減できるか把握できるアプリの開発など、脱炭素化の取り組みが国民として理解しやすく、また、事業者としてはビジネスチャンスと捉えられるようなアプローチをするべき。
- ・空港脱炭素化推進計画の記載事項である「中長期的に実施が見込まれる事業や新たな技術の活用が見込まれる事業」については、今後実施が見込まれる要望に近い内容も計画に記載できるようにしてはどうか。

運航分野

- ・燃料の負担増加額を公共負担か利用者負担にするかが論点。航空機燃料税はこれまで空港整備にしか使用していないところ、燃料の負担増加分を誰が負うかなどの方向性を検討しないといけない。例えば自動車分野では、13万人を対象にアンケート調査を行った際、脱炭素化が重要という考えている方も多いが、その前提に減税を求める声が多かった。そういったことを考慮し、国民に燃料料金の理解を求める必要がある。必要性だけでなく負担もセットで考えることが重要。
- ・SAFの本格導入による燃料の負担増加額が航空運賃に跳ね返る場合、利用者が他人事だと思っていて料金が上がった際に初めて気付くようなことが無いよう、国民への啓発、周知に力を入れるべき。
- ・原料に廃油を使用する場合、一般の店舗からの廃油の利用など、国民生活にかなり関わるので、そういう観点からも周知をお願いしたい。国民が身近に感じる具

体的なことを例示、提示して国民に周知することも大事。現時点では、他人事と
思っている人がほとんどだと思われる。

- ・航空分野以外でもバイオ燃料の検討を行っていると思うが、各分野間で原料の取り合いにはならないのか懸念。原料確保及び国産化が重要だと思うが、国民の理解を進めるには、航空に閉じない世界で原料確保の段階から航空機の燃料を通して、国民が自身の生活と SAF の関係性が見えたらよい。また、燃料に関して官民共同の研究も進んでいるが、大手企業のみならず、すそ野が広がればよいと思う。
- ・管制の高度化等による運航の改善について、「迂回の少ない飛行ルート」といった細かな現場の取組を重ねることは良いと感じる。これまでも飛行ルートの見直しを検討していると思うが、実現に向けて難しい課題や削減効果を示して欲しい。
- ・飛行経路による削減は、どのような効果としてカウントされるのか。飛行経路が短くなれば、航空会社だけでなく、運賃や路線の頻度にもメリットとして跳ね返ってくるので、総合的に見て地域に情報を示し、理解を促進することが重要。
- ・運航において、これまで速達性が重視されてきたが、最近は CO2 削減のためにゆっくりと飛ぶ検討もしている。こういうことを国民にも周知するとともに、ビジネス上のデメリットを克服するインセンティブの設計ができるような議論をすべき。

空港分野

- ・空港の脱炭素の取組は民間事業者が主体となるが入札の透明性は問題ないか。
- ・太陽光パネルの素材について、窓に貼れるもの等、近年様々なものが開発されている。北海道では冬は雪で太陽光パネルが埋まってしまう。こういった場合でも対応できるような新素材の検討をしていくべき。

その他

- ・補助金は通常 6 月、7 月に採択され、翌年 2 月、3 月までの半年のうちに執行しきる必要があるために使いづらい。補助金全般に言えることだが、民間の投資は 1、2 年間程度の期間で行われるものであるため、目詰まりを起ささないよう方策を検討してもらいたい。

- ・脱炭素に対する国民の関心を引き出すには、きっかけ作りが必要。メディアを活用するには、メディアが取り上げやすいものを国が発信できたら良いのではないか。
- ・航空脱炭素化の検討体制図に国民への周知に関する内容がない。誰が国民にコミュニケーションをとるのか明確にすべき。国民への理解促進について、官民協議会の場だけでなく、必要があれば別の組織をつくって検討する必要もあるのではないか。

【議題2（水際・需要動向、次モビ）】

司会進行の時間の関係性上、質疑なし。